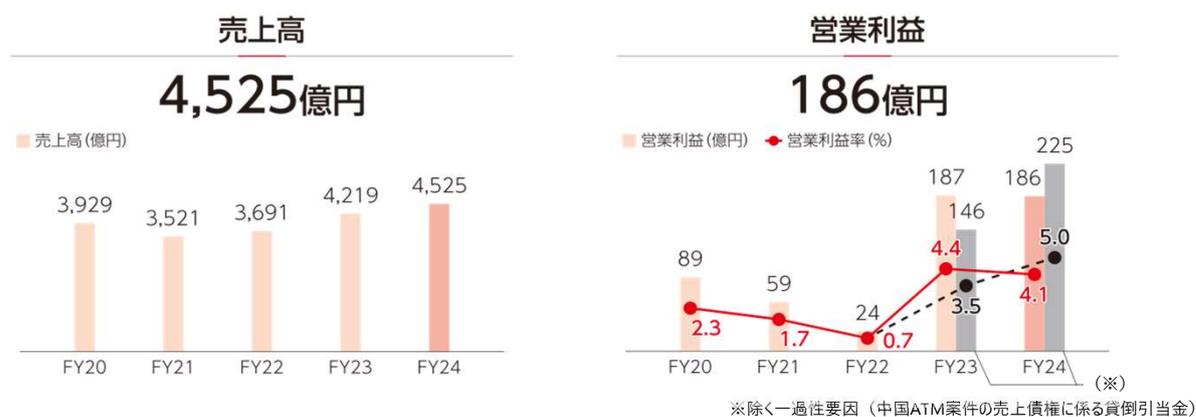


事業報告

2025年6月25日
沖電気工業株式会社

2024年度 決算概要

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
4,525億円	186億円	168億円	125億円



2024年度の結果は、
売上高 4,525億円、営業利益 186億円
経常利益 168億円、当期純利益 125億円となりました。

売上高は、3期連続の増収となり、5期ぶりに4,500億円を越えることができました。

営業利益は、一過性のマイナス要因をカバーし、186億円と前年度水準をキープしました。

一過性要因を除くと、実質的な事業利益は225億円と前年度比で約50%増加しております。

主要な事業別の状況

パブリックソリューション事業

事業内容

主に道路関連システム、航空関連システム、消防・防災関連システム、官公庁向けシステム、防衛関連システム、航空機器、通信キャリア向け通信機器などの製品の製造・販売、システムの構築・ソリューションの提供及びその他サービス



単位：億円	2023年度 (参考:前期)	2024年度 (当期)	増減率
売上高	940	1,305	38.9%
営業利益	44	141	217.2%

■ 社会インフラ・特機システムともに伸長（売上1.4倍、営業利益率2倍）

次に、各事業の状況についてご報告申し上げます。

まず、パブリックソリューション事業です。
2024年度は売上も利益も大幅に増えました。

注力している消防・防災・道路・防衛などで売上を伸長、
営業利益率も2倍となり、
中期計画の目標を上回る状況にあります。

2025年度以降も市場機会は十分にあると見ており、
生産設備や海外展開への投資を強化し、
更なる成長を目指します。

主要な事業別の状況

エンタープライズソリューション事業

事業内容

主にATM、現金処理機、営業店端末、予約発券端末、チェックイン端末、外貨両替機、ATM監視・運用サービス、金融営業店システム、事務集中システム、予約発券システムなどの製品の製造・販売、工事・保守及びその他サービス



単位：億円	2023年度 (参考:前期)	2024年度 (当期)	増減率
売上高	1,801	1,798	△0.2%
営業利益	220	131	△40.3%
営業利益 (一過性要因除く)	179	170	△4.6%

■ 前年からの新紙幣対応案件等により、売上並びに一過性要因を除いた実質的な事業収益とも引き続き高水準

続いて、エンタープライズソリューション事業です。

2024年度は、前年から続く新紙幣の対応など、大型案件を計画通りに履行し、堅調に推移しました。一過性要因を除く、利益は前年同様に高水準となっています。

2025年度は、特需が一服し、平常期に入りますが、国内金融市場でのシェアUP、アジア市場でのビジネス拡大、更には自動機のベトナムへの生産移管によるコストダウンなどにより、中期計画の目標を上回る状況にあります。

この状況を鑑み、次期中期計画では市場の変化を追い風に、新たな成長の道を描きます。

主要な事業別の状況

コンポーネントプロダクツ事業

事業内容

主にエッジデバイス（IoT）、センサーネットワーク、PBX、ビジネスホン、コンタクトセンター、クラウドサービス、LEDプリンターなどの製品の製造・販売及びその他サービス



単位：億円	2023年度 (参考:前期)	2024年度 (当期)	増減率
売上高	734	758	3.2%
営業利益	6	29	417.9%

■ 利益重視のマネジメントにより
前年対比営業利益を改善

続いて、コンポーネントプロダクツ事業です。

2024年度は、利益重視のマネジメントにより収益を改善しました。同時に、プリンター事業において、リコー社、東芝テック社との合併会社であるエトリア社への参画など、構造改革にも着手しております。

2025年度は、2024年度並みの業績を維持しつつ、開発生産部門のエトリア社への合流を実行します。

現状では、中期計画の目標を下回る状況にありますので、エトリア社への合流をテコに、事業効率を改善し、中期での収益力強化を図っていきます。

主要な事業別の状況

EMS事業

事業内容

主に設計・生産受託サービス、プリント配線板、ケーブル・電極線、エンジニアリングなどの製品の製造・販売及び
その他サービス



単位：億円	2023年度 (参考:前期)	2024年度 (当期)	増減率
売上高	739	659	△10.8%
営業利益	11	△8	—

■ 半導体市場やFA・ロボット市場の低迷長期化により2期連続減収減益

そして最後に、EMS事業です。

2024年度は、半導体市場やFA・ロボット市場の低迷長期化により、ケーブル・基盤などの部品事業が大きく落ち込み、2期連続の減収で赤字となりました。

2025年度は、大きな市況回復を期待せず、堅実なマネジメントに徹します。
中期計画の目標を下回る状況にありますので、次期中期計画に向け戦略の見直しを図ってまいります。

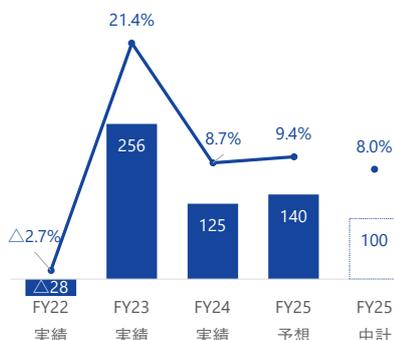
以上が各事業の状況でした。

中期経営計画2025の進捗状況（経営目標）

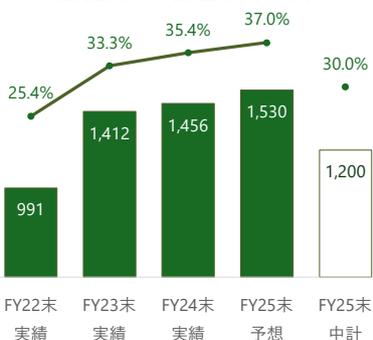
- 売上高、営業利益：中計目標達成に向けて順調な進捗
- 当期純利益、ROE：中計目標8%を超え、10%以上を目指し進展中
- 有利子負債と自己資本：中計目標を前倒しで達成、財務基盤は着実に回復

（単位：億円）

親会社株主に帰属する当期純利益・ROE



自己資本・自己資本比率



有利子負債・ネットD/Eレシオ



続いて、中期経営計画で掲げました
経営目標の達成状況をご説明いたします。

当期純利益・ROE・自己資本比率・ネットD/Eレシオの
全ての目標値で一年前倒しで達成しております。

今年度の予想としましては、

- ・当期純利益は、目標100億円に対して140億円
- ・ROEは、目標8%に対して9.4%
- ・自己資本比率は、目標30%に対して37%
- ・ネットD/Eレシオは、目標0.7倍に対して0.5倍
となっています。

財務基盤は近年で良好だった2019年度水準を超え、
着実に良化しています。



2024

国内唯一の水中音響計測施設をリニューアル
新固定式計測バージ
「SEATEC NEO」稼働開始

米国 Plug and Play 社と
パートナーシップ契約を締結

2023

OKIとパナソニック、
EV 充電インフラシェアリング
サービス分野で提携

信越化学の QST 基板上で
GaN の剥離/接合技術を開発

最後に、主だったトピックスを一部ご紹介いたします。

2023年度は、海洋分野の強化につなげる計測バージ『シーテックネオ』をリニューアルいたしました。

そして、技術イノベーションを強化するため、シリコンバレーに技術拠点を新設を行いました。

また、半導体分野の事業化に繋げる信越化学さんとの共創活動などを展開しました。



2024年度は、国家イベントと言って良い新紙幣流通への対応を完遂しました。

新紙幣流通開始の昨年7月前後には、総勢240人の対策本部を立ち上げ万全な体制で市場対応し、社会インフラを支えました。

その他にも、プリンター事業の構造改革に繋がるエトリア社への参画。

グローバル事業創出に繋げる、共創ファンドへの出資やベトナムFPT社との戦略提携など、将来への布石も打っております。



今年度は、
半導体分野で日清紡マイクロデバイス様との共創で
『半導体オブザイヤー優秀賞』を獲得。

そして、シリコンバレーに続く、
2 番目の技術拠点をベルリンに開設しました。

また、NHKの『魔改造の夜』に出場し話題を集めました。

これらのことは、
世の中にOKIの技術力を示すことができたと思っています。
また、同時にこのことが社内を大変活気づけています。

以上、事業概況をご報告申し上げます。